

【児童に関する質問についての分析・考察】

(質問1について)

否定的な回答をしている児童が保護者が1割いること、昨年度に比べその割合が増加していることを私たちは重く受け止める必要がある。この結果を真摯に受け止め、何が原因かを調べ、対策を検討・実施していかなければならない。9割の楽しく過ごせている児童を見て安心するのではなく、1割のそうでない児童に気づき、寄り添い一緒に考えていける教員を私たちはめざしていかなければならない。

(質問2について)

今年度、校長が先頭に立って推進してきた挨拶について、児童・保護者・職員がともに向上している。校長がリーダーシップを発揮すると効果が高いことがわかった。今後も学校がどんなことに重点を置いているのか周知していく工夫や、保護者のニーズ・思いと学校が目指す重点事項が一致していくよう、保護者との協働関係をより深めていく必要がある。

(質問3について)

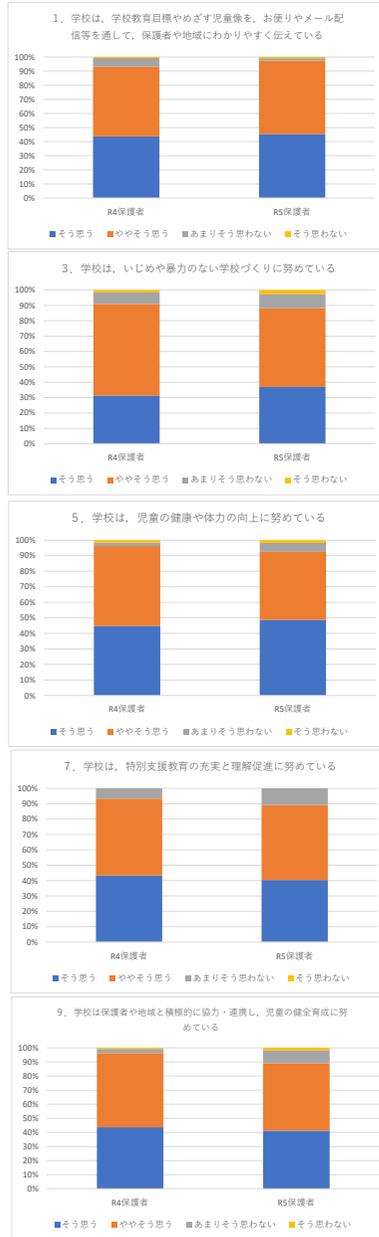
児童・保護者・職員ともに昨年度に比べ低下傾向である。友達関係について何かしらの不安や悩みを抱えている子が「5%未満しかない」ととらえるのではなく、「5%弱という少数だから、なおのこと孤立感を募らせているのでは」というとらえ方で一人一人（少数派）に寄り添い、一緒に考えていこうとする教職員になれるよう努力していく。

(質問4について)

児童は、昨年度に続き3割近くが否定的な回答をしている。相談相手がないのか、相談する時間や機会(タイミング)が無いのか、その原因を探り、対策を講じなければならない。相談することの良さ(利点・効果)や相談の仕方など、児童の目線で指導内容や方法を工夫し、道徳や学活等で実施していくことや、担任・他の先生・親・家族・友達・SC・教育相談員など相談できる人は周囲にたくさんいることをもっとアピールすること、保護者会や個人面談などで保護者と相談し、協力して子どもたちの声をすくい上げていくことなどの具体策を検討し講じていきたい。

(質問5, 6, 8について)

本校は「主体的に学び、表現できる児童の育成」という主題で学習活動・指導の向上のため研修に取り組んでいる。質問5, 6, 8における児童・保護者の肯定的意見の向上傾向が見られることから、研修の努力やその成果が子どもたちの実感として表れており、また子どもをとおして保護者にもそれが伝わってきているものと考えられる。次年度以降も一人一人の教職員が主体的に(課題意識や目標をもって)研修に取り組み、児童・保護者が成長を実感できる指導や学習活動を工夫・向上させていきたい。



【学校に関する質問についての分析・考察】

(質問1, 9について)

前回までの学校評価で指摘が多かったメールサービスの活用を改善（欠席等の連絡をマチコミでできるようにしたことや手紙を紙ではなくできる限りデジタル配信にしたこと）できたことが高評価につながったと考える。今後も学校評価はもちろん、保護者との談笑等から得られる学校改善のヒントをキャッチして改善に取り組みたい。そのためにも、保護者と気軽に、気兼ねなく話せるような良好な関係づくりが今後も大切である。これはデジタルに頼らず、直接会って顔を見て話すことを重視して取り組んでいきたい。

(質問2, 8について)

子どもに関する質問5, 6, 8とは対照的に肯定的意見がわずかだが減っている。学校での子どもたちの学習・生活の様子が保護者にとってブラックボックスとなっていることが要因の一つなのだろうか。授業参観等の行事を抜本的に見直し、本来の（いつもの）子どもたちの様子が保護者に伝わる工夫・努力をしていく必要がある。

(質問3, 4について)

どちらも「そう思う」とより肯定的な意見が増えたのと同時に否定的な意見も増えてしまっている。いずれもわずかな変動ではあるが、保護者との信頼関係を築いていく上で最も重要かつ基盤となるいじめ防止や安全管理については、常に意識を高くもち、より厳しい自己評価をしていかなければならない。保護者の意見が二極化してはならない項目であることをあらためて確認し、全職員で次年度以降も真摯に誠実に取り組んでいきたい。